

ニュース

○徳島海岸浸蝕対策委員会発足

徳島県の海岸地帯は昭和 19 年の南海大地震及びチエーン台風による被害が大きく、ジェーン台風による損害額は約 17 億と推定され、災害復旧に要する費用は約 10 億に上る。

これの対策樹立の為徳島県知事を委員長とし建設省同土木研究所、同中国四国地方建設局、徳島県、運輸省港湾局、同第 3 港湾建設部、大学等が参加して、準備委員会を終り、近々本委員会が開催される運びに至つた。この委員会は本年始めより約 1 年間に総合的な対策を樹立すべく計画中である。

特に被害の著しい箇所は里浦、小松、坂野の各海岸地帯である。

○海岸堤防法案

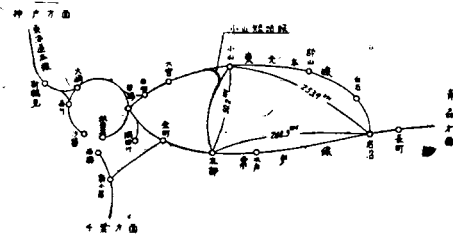
従来海岸に関する法案が無かつたが、海岸堤防法案が起草されることになり、建設省治水課がその衝に当たっている。この法案の目的とする所は海岸地帯の管理保全を図り、管理者を明確にすることにある。昨暮安定本部資源委員会主催で関係各官が集まり、海岸堤防懇談会を開催した。

○小山短絡線完成について

本短絡線は東北本線小山駅南方から水戸線結城方面を結ぶ線路であつて、東北本線対常磐線の直結ルートとして昭和 25 年 5 月 3000 万円の予算で着工し、同年 12 月 21 日から使用開始をした約 900m の単線（乙線）である。本工事は既に戦時中に計画され（当時の計画は石炭輸送の為であつて、今回の工事の主目的とは意味を異にする）国鉄が独算制をとる事になり第一に取り上げられたものである。即ち東京以西対東北の貨物輸送（1 日平均 386 輛 23 年 11 月中）は東北本線郡山白石間にある 25% 勾配に制肘を受け牽引定数の低下は勿論、補機を必要とし、之に要する費用も亦大きい。本列車を常磐線及び水戸線經由に依れば、距離に於て約 40km 延び、時間は約 1 時間の遅れとはなるが、之による石炭の節約は僅か 3 ケ列車（往復）で 1 日約 9 産、その他機関車並に乗務員等、年間約 4000 万円を節約する事が出来る。従つて 25 年度当初から水戸線經由の列車が上下 3 本宛運転されていた。而し小山駅構内では機関車の転向、列車の転線等に最小 1 時間 20 分を費し、牽引定数も構内設備の開

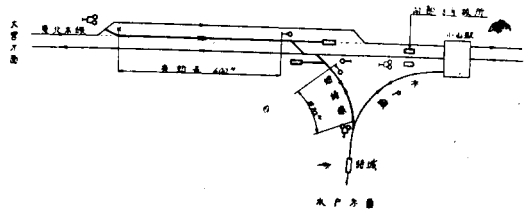
係上制限を受けていたもので、本短絡線開通によつて大宮、水戸間を給炭水する事無く又輻輳せる小山駅構内に支障を及ぼす事なく運転する事が可能となつた。

図-1



本工事は新橋工事事務所（当時は東鉄新橋工事部）に於て設計施工し、電気関係工事は東京電気工事事務所の手によつて施工されたものである。

図-2



設備としては東北本線 79km 附近に於て上下線間に有効長 600m の下り待避線を設け分岐器は総て遠距離操作とし、小山結城間は通票閉塞式（タブレット）を廃し連動閉塞式を用い、小山駅構内（但し短絡線関係のみ）は継電連動とした。南部信号扱所も老朽であつた為新たに建築して切換を行つた。

本工事施工中ジェーン台風（25 年 8 月）の為、小貝川が欠壊し常磐線取手、佐貫間は稀に見る長期間の不通状態に落ちいつた為、水戸線經由の列車を 20 本以上も取扱つた。その回復の時期も不明であつた処、更に台風の卵が南方に発生し再び常磐線の被害を予想せられた為、8 月 14 日日本工事に突貫命令が下され、一週間以内に本短絡線を開通させるべく昼夜兼行、遂に 8 月 23 日試運転を実施し、何時でも列車を通し得る状態とした。（但し分岐器は 2 種扱、タブレットは搬送式）幸い後続のキジア台風は日本海に抜けて本短絡線を未使用に終つた事は寧ろ喜ぶべき事であつた。

と思う。引続き信号関係の本設工事を 12 月 20 日完了し 21 日から正規ダイヤで運行を開始した。

工事内容

工期 土工及軌道関係 着手 25 年 5 月
 竣工 〃 年 8 月
 信号、電気関係 竣工 〃 年 12 月
 工費 総 額 約 3500 万円
 用地買収 約 20 万円
 土工其他（信号扱所を含む）350 万円
 軌道其他 約 700 万円
 機械保安 〃 500 〃
 其 他 〃 430 〃
 電気関係 〃 1500 万円

当初の予算を 500 万円超過したのは、突貫工事の為と電気用資材の値上り等の為である。

結 び

本工事は 25 年 9 月の時刻改正を目途として施工されたのであるが、台風による保安関係工事の手間どり仕事と、電気用資材の入手が遅れた（方針変更の為）事とによつて工期が長引いたのであるが、12 月 21 日開通以来至極順調に故障も無く運転して居る。又今後常磐線取手附近の不通を見る様な事があつても東京以西対東北の輸送は確保され、不通による損害 300 万円（常磐線 1 日不通の場合）も半減される事と思う。

（国鉄新橋工事々務所 桐淵、鈴木記）

学 会 新 刊 案 内

1. コンクリート標準示方書解説

発刊以来非常に好評で続々と申込があり、既に大半を売尽しました。再販まで期間がありますから、御希望の方は至急御申込願います。

体 裁； B・5判（学会誌と同じ大キサ）165頁、美麗製本、上更紙使用
 定 価； 300円（送料30円） 会員に限り 240円（2割引）

2. 土木学会論文集第 5 号

漸く刊行された論文集ですが、御存知の方が少い様子で低調です。御求めになつた方々は御知合の会員各位に宜しく御教示の程お願い申し上げます。

体 裁； B・5判 134頁 定 価； 250円（送料 20円）

3. 土木学会論文集第 7.8.9 号

最初の試みである著者実費一部負担のパンフレット式論文集ですが、非常に好評です。部数が僅少ですから早目に御申込にならないと無くなる恐れがあります。

- 第7号 工博 仁 杉 敬著 鋼弦コンクリート桁の設計法に関する実験的研究
 B・5判 33頁 定価； 60円（〒6円）
 第8号 工博 国 分 正 胤著 新旧コンクリートの打継目に関する研究（売切）
 B・5判 24頁 定価； 50円（〒6円）
 第9号 工博 小 西 一 郎著 一般剛節構造物の解法
 B・5判 9頁 定価； 20円（〒6円）

4. 最近土木工学の概観

最近土木技術史編集委員会の編集による最近土木工学の概観を只今販売中です。日本学術振興会の発刊で、戦時中（1940～1945）のわが国土木技術界の動向を統合した貴重な資料ですから奮つて御申込下さい。

体 裁； B・5判 特製 537頁 定 価； 850円（送料共）